

目 標	施策の方向性	主な取組
1 目指そう活力ある100年 健康長寿	1 人や社会とつながり続け、役割をもって活躍できる機会の創出 2 生涯を通じた健康づくり・介護予防	●生涯学習の機会の提供や、生きがい・仲間づくり、地域活動や社会貢献活動を担う人材の育成を目指して、「年長者研修大学校」(周望・穴生学舎)で講座を実施した。 ●ボランティアの目的や対象に応じた様々な講座研修等を行うとともに、ボランティアのコーディネート、活動支援、関係機関との連携による情報収集・発信等を行った。 ●講演会や介護予防教室等を実施し、高齢者自らが自身の健康を維持・向上するために必要な正しい知識の普及啓発を図った。 ●生活習慣病の重症化を予防するために、健診の受診勧奨や専門職による健康教室や保健指導等を行った。また、通いの場等へ専門職が出向き、運動機能や口腔機能の向上、低栄養改善などのフレイル対策の啓発を行った。 ●市民が身近な地域で、主体的・継続的に健康づくり・介護予防活動に取り組めるよう、地域のリーダーとなる人材の養成を行った。
2 人情息づく支えあいのまち 地域共生社会	1 人のつながりが幸せや安心を生む支えあいの地域づくり 2 認知症にやさしいまちづくり (北九州市認知症施策推進計画)	●見守り支援を必要としている人が社会的に孤立することがないよう、地域団体・NPO・民間企業等、地域全体で見守り、必要なサービスなどに繋げた。 ●高齢・障害・子育て・生活困窮の分野の支援機関等と協力し、複雑化・複合化した課題を抱える世帯の支援を行った。 ●北九州市孤独・孤立対策等連携協議会において、行政・支援者同士の連携を深めるため、各団体の事例発表や、ケーススタディなどの活動を行った。 ●地域支援コーディネーター・地域生活支援相談員が、地域住民同士の支え合いや多様な主体を巻き込んだ生活支援サービス創出に向けた取組を行った。 ●認知症に対する理解を深め、認知症の人やその家族を地域で温かく見守り支える「認知症サポーター」を養成した。 ●認知症の人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場である「認知症カフェ」の普及啓発及び活動支援に取り組んだ。 ●認知症の人やその家族が抱える不安や悩み等を気軽に相談できるようコールセンターを設置し、支援を行った。

現プランの主な取組

目 標	施策の方向性	主な取組
2 人情息づく支えあいのまち 地域共生社会	3 尊厳のある自分らしい暮らしを守る権利擁護の推進 (北九州市成年後見制度利用促進計画) 4 介護者(ケアラー)のサポート	●北九州市成年後見支援センターを中心に、成年後見制度の広報や相談窓口の対応を行うとともに、制度の利用促進や弁護士、司法書士、家庭裁判所等の関係機関との連携強化に取り組んだ。 ●地域包括支援センターを窓口として高齢者虐待の相談に対応し、弁護士等の専門職と連携を図りながら、虐待を行っている養護者を含む家族全体の支援を行った。 ●地域包括支援センターの総合相談において、ヤングケアラーやダブルケアなど複合的な課題を抱える家族からの相談に対応した。
3 選べる自由が感じられる多彩なケア 安全・安心・自己決定	1 不安を安心へ 2 介護サービス等の提供体制の充実及び介護保険制度の安定した運営 3 安全・安心に暮らし続けられる環境づくり	●地域包括支援センターで、年間20万件を超える相談に対応するとともに、地域ケア個別会議を通じて、個別事例の検討や課題分析、ケアマネジメント支援策の検討を行うなど充実に取り組んだ。 ●市内2カ所に設置した地域リハビリテーション支援センターにおいて、相談支援や関係機関との連携強化などに取り組むとともに、リハビリ専門職の協力による地域の通いの場等への派遣等を通して支援体制の構築に取り組んだ。 ●市内5か所の在宅医療・介護連携支援センターにおいて、医療・介護関係者からの在宅医療に関する専門相談への対応をはじめ、各種研修会等の実施により、多職種・多機関連携の促進を図った。 ●「終活あんしんセンター」を開設し、終活に関する相談対応やエンディングノートの普及・活用、周知・啓発を通じて、相談体制の整備を進めた。 ●介護現場の生産性向上のため、介護テクノロジーを活用した先進的介護「北九州モデル」の普及促進を図るとともに、安定的な介護サービスの提供体制を確保するため、介護人材の確保・定着に取り組んだ。 ●「避難行動要支援者避難支援事業」や、「個別避難計画作成促進事業」により、自力で避難することが困難な高齢者や障害のある方のための避難支援の仕組みづくりを促進した。 ●高齢者が安心して買い物を楽しむことのできる「地域づくり」に取り組んだ。